

令和8年度
総合型選抜入学試験2期

基礎学力試験問題
(小論文)

1. 試験時間は、60分です。
2. 問題は、この冊子の1～4ページにあります。問題用紙が解答用紙を兼ねています。
3. 問題や解答を、声に出して読んではいけません。
4. 印刷の不鮮明、用紙の過不足については、申し出てください。
5. 問題や解答についての質問は、原則として受け付けません。
6. 終了の合図があったら、すぐに筆記具を置いて、解答用紙を机の上に伏せてください。
7. この問題用紙は、持ち帰らないでください。
8. 不正な行為があった場合には、解答をすべて無効とします。
9. 答案の文字は、ていねいに、かつ明瞭正確に書いてください。
10. その他、試験の進行については、監督者の指示に従ってください。

植草学園大学 看護学部

受験番号		氏名	
------	--	----	--

高齢運転者が自動車のブレーキとアクセルを踏み間違えて第1当事者^{注1)}となる交通事故がしばしば報道される。本人もしくはその家族が運転者の体力や判断力などの心身機能の加齢変化を理解し、運転を継続するか否かを判断することが求められる。運転者が自身の運転技能に不安を感じた際の安全運転相談としては、各都道府県免許センターにて看護師や作業療法士等の医療系専門職が対応する相談窓口がある他、安全運転相談ダイヤル「#8080（シャープハレバレ）」も運用されている。

現在、75歳以上の運転免許保有者が免許証を更新する場合、3年毎に高齢者講習^{注2)}と認知機能検査^{注3)}を受けることが義務付けられている。その検査で「認知症のおそれあり」と判定された者は必ず医師による診察を受け、その上で認知症と診断されると免許が取り消される。認知症と診断されなかった者でも運転に不安がある場合は、運転免許の自主返納（申請による運転免許の取消し）を検討することができる。自主返納の後、免許証に代わる公的な本人確認書類として運転経歴証明書が交付された際には、自治体や公共交通機関事業者等から利用料金の割引などの様々な支援を受けることができる。令和4年度からは運転免許証の自主返納だけでなく、中間的な選択肢としてより安全な自動車に限って運転を継続するというサポートカー限定免許^{注4)}への自主的な切り替えも提案されている。しかし、購入者による車両買い替え費用の負担という課題もあり、令和6年末時点におけるこの限定免許の申請者数は全国で103名に留まっている^{注5)}。

注1) 最初に交通事故に関与した事故当事者のうち最も過失の重い者。

注2) 安全運転に関する座学および動体視力測定等の運転適性検査、定められた課題を運転する実車指導といった2時間の講習。

注3) 16種類の絵を記憶して何が描かれていたかを回答する「手がかり再生課題」、ならびに検査時の年月日・曜日・時間を回答する「時間の見当識」の2つの簡易な検査から認知症のおそれの有無を調べる。

注4) 安全運転支援装置（衝突の可能性がある場合に自動でブレーキが作動する機能と間違えてアクセルペダルを踏み込んだ場合に加速を抑制する機能）が搭載された普通自動車のみを運転することができる免許。

注5) データに関する総合窓口（警察庁）。

問題 次の問いに答えなさい。

問1 表1は「令和6年末の一般原付以上運転者の年齢層別・法令違反別死亡事故件数」である。

- 1) 表1のA、Bにあてはまる数値を答えなさい。なお、Aは免許保有者数を10万人の単位で表した値である。また、Bは小数第2位を四捨五入した値とする。

A () B ()

- 2) 次の文章について正しい時には「○」、誤っている時には「×」を（ ）に記入しなさい。

- () 75歳以上の免許保有者による死亡事故件数の割合は、75歳未満の約2倍である。
- () 75歳以上の運転者が起こした死亡事故のうち、漫然運転が原因となった割合は約25%である。
- () 運転操作不適が原因となった死亡事故の割合は、75歳未満の運転者に比べて75歳以上の方が多い。

表1 令和6年末の一般原付以上運転者*¹の年齢層別・法令違反別死亡事故件数

年齢層	免許保有者数	免許保有者数 (単位 10 万人)	死亡事故 件数	免許保有者 (単位 10 万人) を1とした時の 死亡事故件数	事故原因となった法令違反別の 死亡事故件数	
					運転操作不適* ²	漫然運転* ³
全体	81,742,303	A	2,325	2.8	307	336
75歳以上	7,897,762	79	410	B	103	40
75歳未満	73,844,541	738	1,915	2.6	204	296

*¹ 自動車、自動二輪車及び一般原動機付自転車の運転者

*² ブレーキとアクセルの踏み間違いやハンドル操作の誤り

*³ 信号の見落としやブレーキの遅れ等の集中力低下に伴う前方不注意

出典：令和6年中の交通死亡事故の発生状況及び道路交通法違反取締り状況等について 表3-1-1,3-1-2,3-2-3（警察庁交通局）

*出題の都合上、部分的に省略・改変してある。

問2 令和5年に実施された運転免許証更新時の認知機能検査では、総受検者数2,563,710名のうち55,634名が「認知症のおそれあり」と判定されている。その判定には下記の計算式が用いられ、手がかり再生課題と時間の見当識の各点数を式に代入した総合点が「36点未満」になると「認知症のおそれあり」と評定される。

$$\text{総合点} = 2.499 \times a + 1.336 \times b$$

a：手がかり再生課題の点数（最大32点）

b：時間の見当識の点数（最大15点）

1) 受検者あ～おのうち「認知症のおそれあり」と判定されるのはだれか答えなさい。2人選べ。

受検者	a (点)	b (点)
あ	15	10
い	10	15
う	10	5
え	10	10
お	5	10

受検者 () と ()

問3 表2と図1は「安全運転相談の利用率および運転免許自主返納率の年次推移」である。表2をもとにして、図1の平成30年までの自主返納率の折れ線グラフに繋がる形で、それ以降のグラフを完成させなさい。

また、安全運転相談利用率の軸目盛について、図1の①～⑦の空欄に適した数値（小数第2位まで）を記入しなさい。

表2 安全運転相談の利用率 *⁴および運転免許自主返納率 *⁵の年次推移

年	安全運転相談利用率 (%)	自主返納率 (%)
平成27年	0.07	2.6
平成28年	0.08	3.2
平成29年	0.10	4.7
平成30年	0.12	5.2
令和元年	0.12	6.0
令和2年	0.12	5.0
令和3年	0.13	4.6
令和4年	0.15	4.1
令和5年	0.14	3.6

*⁴ 各年の運転免許保有者に占める安全運転相談の受理件数

*⁵ 75歳以上の運転免許保有者における自主返納の割合

出典：平成28～令和6年版運転免許統計 p3, 令和6年版運転免許統計 p18（警察庁交通局）

令和2年版警察白書 p150, 令和6年版警察白書 p160（警察庁）

*出題の都合上、部分的に省略・改変してある。

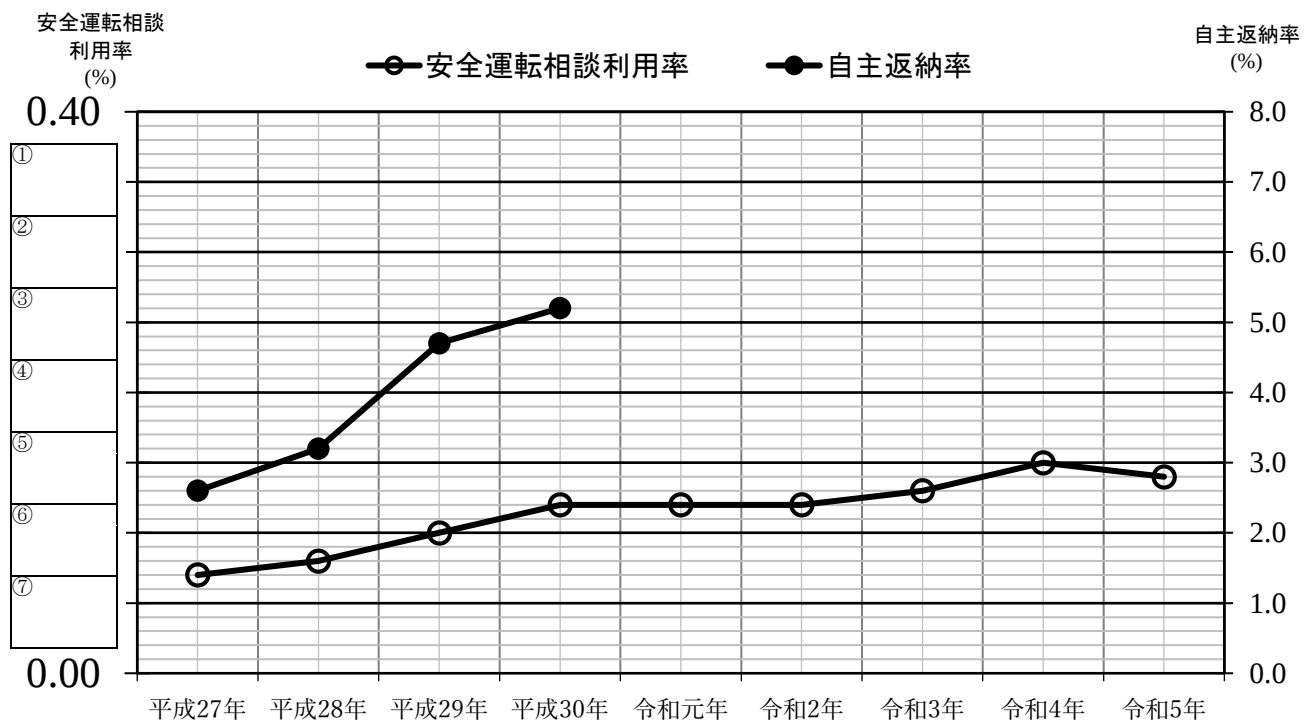


図1 安全運転相談の利用率および運転免許自主返納率の年次推移（折れ線グラフ）

問4 冒頭文やこれまでの設問から、高齢運転者による交通事故を低減させるためには、具体的にどのような取り組みが必要であるか。理由とともにあなたの考えを述べなさい。なお、解答は400字以内にまとめなさい。

